幸福会ヤマギシ会 けんさん
THE KENSAN
2024年9月号
第599号
発行　幸福会ヤマギシ会全国事務局　〒194-0035　東京都町田市忠生 2-29-18　ヤマギシズム東京案内所
tel:042-851-9180 fax:042-851-9181 email:tokyo@koufukukai.com

2024年・夏
一週間研鑽学校に参加して

〝みんなで研鑽して自分で見出す〟

その体験に研鑽学校は最高！

私のこれからの人生 RESTART！

夏の一週間研鑽学校は、一志実顕地を会場に各地から集まった24名（男性7・女性17）と係3名で開催されました。「今回の研学は一週間しかない」ことをみんなが意識して、初めから活発に意見を出し合い、出されたテーマに取り組んだ研鑽学校でした。「24名の参加者、多いかと思ったけど、一人一人がいたからの今の私！これからが本番RESTART！」と出発しました。

愛知県名古屋市から参加したSSさん（28歳）

研鑽学校では、相手の行動や、言葉、状況を事実として、そのまま見る・聞くことをしてみました。近頃、相手の感情を察することに敏感になっていたのですが、このテーマでやってみると、人の思いや自分の思いとは切り離した、事実がただあるだけなのだと気づきました。相手の行動や言葉、状況など、それ自体に傷ついていたのではなく、そこに自分の頭で意味や感情をくっつけて受けていたように思います。

また、相手の考えも私の考えも尊重するというテーマで生活してみると、些細なことでも、ぱっと浮かんだ考えを出さずにしまっていることに気がつきました。

中部から参加したメンバー

まず先に、相手の考えを察して、そこに沿うものを自分の中から選択して出していたり、この状況で適切な意見や行動は何かを考えていたように思います。「あなたはどうしたいの？」という簡単な問いに、「何と答えたら良いのか…」と思考停止している自分にも驚きました。

どことなくあった、居場所がないような、寂しさのもとは、良いも悪いもなく無条件に、自分の考えを〝出していいもの〟にしていなかったからなのかもしれないなと思います。

何か大きな壁があって、それを超えるために自分を変える。できていないことをできるようになる。と、力んでいたところから、研鑽学校を経て、大きな壁なんて私がそう見ていただけで、今ある暮らしの中で、まずはじっくり、事実をそのまま見て、私の考えを軽く出してみることをやっていけたらいいなと思うようになりました。

滋賀県東近江市から参加のJGさん（37歳）

ここに来る前から、今年の自分のテーマが『聞く』ということでした。

ここに来て初日は、1部屋に27人と言う人数がいたので、人の多さに圧倒され、発言をするのが少し勇気が入りました。しかし、2日目の夜には『あれ？人が減ったのか？』と思うくらい景色が変わりました。恐らく、顔と名前が一致する人が増えるにつれて、圧倒される気持ちが薄れていったんだと思います。

3日目からは、聞くと言う事に集中するように心掛けていたのですが、誰が何を言っているのか？頭で理解しようと必死で、凄く疲れました。ただ、4日目5日目と時間が経つにつれて、研鑽会以外で話しした人の事は、純粋に話が聞きたいと言う感情が湧いてきていました。恐らく、初めは耳で聞くと言う事をしていたのですが、後半は心で聞くと言う事をしていたと思います。そして、心で聞ける人が増えれば増えるほど、聞くことが疲れなくなっている自分がいました。

【私の聞き方の変化】

①一緒にいるだけで発言し易くなる。

②頭と耳で人の話を必死に理解しようとする。

③その人と関わる中で、その人の事を知れば知るほど、その人に興味を持ち、その人の話が聞きたいと言う感情が芽生

年末年始の「特講」開催予定

12月28日(土)～2025年1月4日(土)
会場：三重県地区ヤマギシズム実顕地にて

●問合せ：ヤマギシズム東京案内所
E-mail　tokyo@koufukukai.com
TEL　０４２－８５１－９１８０
●申込み：WEB　→
FAX　０４２－８５１－９１８１

え、心から聞けるようになる。

また、私はこれまで、使命感で動いている事が多く、人類の為に動いてる感覚はありましたが、自分も含めた人類の為に動けて無かった気がするので、今後は自分も含めた人類の為に、楽しみながら、人類全員が幸せになる方法を実行しようと思います。

東京都渋谷区から参加のYKさん（40歳）

最高です！

三重県津市から参加のKOさん（46歳）

初めての研鎖学校で緊張してましたが、送り出しをしてもらった時に「1週間は短いからたくさん出しておいで」と言ってもらった言葉で最後まで全力でやれたと思います！

集団生活の中で思った事が言えない自分が嫌で、頭の中でグルグル考えて苦しかった時に「何がしたかった？」って聞いてくれて、その瞬間に頭の中がスッキリした感覚が驚きでした。

自分1人ではモヤモヤしたまま終わらせてた事も、せっかく研鑽学校に来たのだから「やってみる！」をすぐに行動したら、心から「ありがとう」という感情が溢れ出して、あの感覚は今でもハッキリと覚えています。

悩んでた時にアドバイスや感覚をつかむヒントを出してくれたり、みんなで研鑽して自分で見出して体感する経験は研鑽学校でしか体験できないと思います。

日常に戻って大変な事がいっぱいあるけど、心が軽く自分がスッキリやれてるのが嬉しくて楽しいです！

愛知県豊橋市から参加のTKさん（56歳）

最近、どこにいても「居心地が悪い」と感じていた。私にとって「居心地の良い場所」って何だろうと考えたくて、研鑽学校に参加しました。

1週間の研鑽学校なんだからと意識して、自分を強く出していこうと思っていました。自分の中に、人に引っかかってこそ、引っかかられてこそ、考えられると思っていたので、やや飛ばし気味の初日を迎えました。予想通り、「おばさんたち早い、よくしゃべる」（私の記憶でそう聞こえてました）と聞いて、ちょっと研鑽学校が、やや居心地が悪くなり、「私のことを無視した。すれ違っても挨拶してくれない。私はあなたが怖い。」と聞いて、さらに居心地の悪い場所になってしまいました。そもそも研鑽学校受付時に苦手と思っていた人が参加していて、最初から居心地が悪かったのですが。結果的に、かなり居心地の悪い研鑽学校になってしまいましたが、これは、大チャンスと思って過ごしていました。

愛和館前は、テーマ〝零位に立って入ります。〟で大渋滞

私にとっての居心地の良い場所を考えつつ、テーマが「なんでもできますか？」の時に「なぜ、この研鑽学校が居心地の良い場所にできないのか？」を考えて、考えて、考えているうちに、自分の心が切り替えられた瞬間がありました。切り替えたものが、扉？ 壁？ 鍵？ のようなもの？ 私のプライド？ 意地？ 何なのかよくわからないのですが。とっぱらった扉？ 壁？ 鍵？ は、ちょっとしたきっかけで外すことができ、その瞬間から、研鑽学校が居心地の良い場所にすることができました。心地の良い瞬間でした。その時に体験した心の軽さも忘れられません。この体得した感覚をこれからも大切にしていきたいです。

関西から参加したメンバー

1週間で、いろんな考えを聴いて、いろんな言葉をかけられ、動揺し、悲しくなり、人が怖くなり、嫌われている自分に嫌気がさして泣いたり、腹が立ったり、すねたり、愉快になったり、楽しくなったり、笑ったりで、自分の持っている喜怒哀楽すべて出し切った感じです。とても恋（♥）1週間でした。2週間はなかなか行けないけど、1週間なら年に一回行けるかもしれませんね。（笑）

東京都練馬区から参加のMSさん（63歳）

参加にあたり、保育園勤務で1週間休みが過去に無い中、試行錯誤しつつ意志を提示し、申し込み締切に何とか間に合うことが出来ました。

研学では、その都度テーマを意識し行動することで、以前は遅いとか、人目を気にしてたことも外れる感覚あり大きな体験でした。

研学の帰りの道中、ふと、今までのしがらみがかなりハードル高く、思い切って外すことで、家族に会えたり、同時に他の家族から過去にない温かいメールが突然届いたり、ビックリ、ポン！（笑）でした。

研学から1週間経ち、職場などで、テーマを意識して実行研鑽することで、よけいな思いが外れ、出ても、テーマに立ち返ると、今、「言われた」と、とってたな、とか、冷静に見れ、その後、尊重できたり、軽くなる実感があります。

『ゴールインスタート！』七夕で「子供達、保護者、先生がいつも楽しく仲良く笑顔で過ごせますように」と短冊に書いたように、研学から出発した自分がこれから、周りの人達にも幸せをもたらす一役かな、と思っています。

☆最後に今回の研学仲間や、研学生を温かく見守り、一緒に心寄せてくれた係さん、一志の皆さん、ありがとうございました！

大阪府和泉市から参加のSTさん（65歳）

30年ぶり2回目の研鑽学校に行ってきました。

誘われて、カレンダーを見て予定はクリアできたし、主人も行ってこいと言ってくれたので申し込みました。でも30年前と違って、あれが出来ないこれも出来ないと申し込みしてから気がついて（笑）どうしようか考えて、ダメで元々と思い、事務局に出してみたら見事クリア！ ほんまに？ 持病があり膝の手術歴のある私でも受け入れて貰えました。

事実を見る聞くのテーマでやってるのに、食堂の「愛和」

と書かれてる文字を昔は「愛和館」、お風呂は「和楽」と読んでたなぁ～なんて思い出して、やってみてを出す時に「愛和」を「ワラク」と勝手に変換して口から出てる自分が見えました。

又、やれない事を考えた時、娘に前科のある身体に入れ墨のある収入も仕事もない男には嫁には絶対やれないと出したとき、皆が目を点にさせて私を見ていました。それを見て「私の考え間違ってる？ あたりまえじゃない？ 皆私の事どう思う？ 言って言って～！」ってなって、色々言って貰っても良くわからなくて、でも出したらなんか違うって思って、一杯出して、見て貰って、一杯言って貰って、納得なんてしてないけど、なぜか前に進める軽い自分がいました。

神奈川県鎌倉市から参加のYKさん（74歳）

仕事にかまけて、自分のペースで生きてきた。今は毎日、家にいる生活の中で何事も柔軟に考え、自分はどうしたいのか問いかける機会を探していた。

いつもと違う所で、いつもと違う人と、いつもと違ったテーマで人の思いを聞いたり、自分の思いを出すことができる場、研鑽学校は最適であった。

20人を越える参加者。多種多様な思いが次々と出される。それを評価しようとせずに聞くことで、だんだん頭の中が柔らかくなり、自分の思いが何となく浮かんでくる。それを形にせずに、又、聞く。

人との交流が少なくなっているので、人の話を新鮮に思うには時間がかかった。仕事をしていた時も「結果よりも過程が大切」を心がけてきたが、人の話を聞いても自分の判断で行動することが多かった。今回のテーマのようなことを常に考えることはほとんどなかった。そんな私の心や脳みそを柔らかくしてくれるには、大変に良い時間と仲間と環境であった。

関東から参加したメンバー

夏の子ども楽園村　8月7日～10日・豊里実顕地を会場に開催

夏の子ども楽園村は、各地から参加した小・中学生の87名と、学生を含めた若いスタッフたちで、3泊4日、楽しく暮らしました。スタッフで参加した2人の感想を紹介します。

■楽園村スタッフやってみて

埼玉県　MYさん（大学1年生）

私は幼年部の頃からヤマギシの村で育ち、春日山、豊里など数えきれない程たくさんの楽園村に参加してきました。そして、友達と「大きくなったらスタッフになって帰ってこようね！」と約束していたので、第2のお家ヤマギシの村に、約6年ぶりにスタッフとして帰ってくることができ、懐かしい気持ちでいっぱいです。

久しぶりに帰ってきても、みんな温かく迎えてくださり、懐かしい友達にも会えて、小さかった子たちが大きくなっていて、自分が成長したことを改めて実感しました。

特に、中学生担当だったので妹と一緒に幼年を過ごした小さかった子たちが、中学3年生になっていて身長も伸びて、受験の話をしていたことにとても感動しました。

私は、今回初めてスタッフとして参加して、いつも楽園村として楽しく遊べていたのもスタッフの努力があってこそだと感じることができました。スケジュール通りこなせるようにスタッフ同士で連携したり、子供たちの安全に配慮しながら、どうしたら楽しめるのか考えたり、こんなにスタッフが大変だと思っていなかったのが本音です。そして子供たちが元気すぎて毎日疲れて1日が終わり、楽しくあっという間だったけど、大学生ながら老いを感じました。

この楽園村という場所は、当たり前の環境ではなく、ここでしか味わえない経験が多くあり、とても恵まれた、子供たちの楽園だと感じます。今回知り合った友達を大切にして、これからものびのびと元気に過ごしてください。そして、また楽園村で会えることを楽しみに待っています！ またきてね！

京都府　YTさん（大学2年生）

初めて楽園村に参加したのは14年前の年長の頃でした。それから今の今までは楽園村に来て楽しんで疲れて帰るのが僕の今までの楽園村でした。

前回の楽園村が初めてのスタッフで「参加」という形からは、少し変わったと自分の中で思っていました。そこから「参加」だけでなく自分も「学生スタッフ」として一緒に考えていきたいと思うようになりました。そこからは「プール清掃」「会場美化」に参加しました。

今まで参加してきた楽園村には、スタッフの人達以外にも村の人達のたくさんの協力があるから、こんなにも楽しい時間があると知りました。また、子供がこんなにも笑顔になれるのは、普段からここで生活している人達の笑顔があるからこそだと思いました。

そんな活動に参加してはじまった3泊4日の夏の楽園村、「正直めっっっっちゃ疲れました！」。まず春とは違って人数が格段に多いことにビックリしました。さらに1～3年生は寝る部屋がいつもと違ったり、食事やお風呂は2回転になったりと今までの楽園村とは少し違う形でした。

●「ヤマギシ会LINEマガジン」登録募集中

ヤマギシ会の企画、特講や研鑽学校の日程、各実顕地開催の企画や行事、各地の研鑽会など、LINEマガジンでお知らせしています。希望される方は、QRコードから登録をして下さい。

春の楽園村同様、始まりは心配することが多々ありました。しかし、いざ始まってしまうとそんな心配も子供たちの笑顔と大きな声で吹き飛んで行きました（笑）。春とは違ってみんながみんな覚えられてはいないのですが、顔なじみのある子

達が沢山いて心配がほぐれたのかも知れません。いざ始まってみるとこれが楽園村、離れてと言っても離してくれない１年生、毎度おなじみめちゃめちゃ朝が早い４～５年男子、ダメと言ってもやってしまうのが４～５年男子、いつもとは違う形で進んでいった楽園村でしたが、そんないつもの変わらない子供たちがいるからこそ、今の自分がいるのかもしれません。これからも見た目はいっぱいいっぱい成長して、中身も大人になっていっても、誰にも負けないような元気さだけは変わらないでください。

５年後 10 年後には雄三くんや真愛お姉ちゃんのような楽園村を作っていく人になれたらな～と心の中での小さな目標を立てながら、これからの楽園村にも参加をしていきたいです。

長くなりましたが保護者の皆様、スタッフのみんな、そして子供たち、これからも一緒に楽園村をもっともっと楽しく元気なものにして行きましょう!!　ありがとうございました。

韓日楽園村を開催

７月 30 日～８月３日・韓国実顕地にて

開催にあたって６月からオンラインで楽園村準備研鑽会を始めました。日本から参加者９名、スタッフ４人。韓国から参加者 23 人、スタッフ９人の楽園村でした。国が違っても、言葉が分からなくても、楽しく遊びながら仲良くなる楽園村でした。最後に「今度は日本の楽園村で会おう」と約束しました。楽しかった３泊４日の楽園村の様子は＜むらネット＞を見て下さい。

（韓国実顕地：イ・ジウォン）

５年ぶりにモンゴルで特講を開催

モンゴル特講が８月３日～ 10 日の日程で、参加者 12 名で開催されました。2019 年夏にモンゴル第 15 回特講開催以降、コロナ禍もあり５年ぶりの開催です。係には日本から春日山実顕地の柳夫妻が行き、実習生で来日していた会員が係や通訳として入り創ったモンゴル第 16 回特講です。

モンゴルからの報告

皆さん、こんにちは。モンゴル国トブ県ビャンチャンダマン村の特講会場からダシュドング・ガンゾリグです。

世界中のヤマギシ会の皆さんに、今回モンゴルで特講を開催できたことを報告できることが嬉しいです。

僕は、豊里実顕地の肉牛部の職場で３年間実習し、村の生活を体験して、国に帰った後５年ぶりにモンゴルでヤマギシズム特別講習研鑽会第 2010 回・モンゴル第 16 回を開催することが出来て、とても嬉しい気持ちで胸がいっぱいです。

僕達は2009年の春に、キャンプ場のゲルを借りて、モンゴルで初めてヤマギシズム特別講習研鑽会を開催し、皆で喜びました。

今回の特講は夏の良い時期で開催され、特講生の食事に春先に収穫した野菜や果物、新鮮な乳製品や肉類を提供できたので良かったです。

以前は、日本に行きたいと思った人が特講に多く参加していたが、今回の特講には、本当に自分と周りとの関係を考えたいと気持を持った若い方々から年配の方々が参加し、本音で話し合い研鑽のテーマに真剣に向き合っていました。

参加者の中には「もっと早くヤマギシと特講と出会っていれば良かった。ヤマギシの村の実顕地に行ってみたい」と言う方々もいました。

今回の特講の炊事や事務局に、モンゴルの会員達が力合わせて協力してくれました。一緒に特講を進めてくれた会員のオイドブさんや、バタエレデネさん（豊里養豚部で実習）や、通訳のムンフオリゴル君（豊里肉牛部で実習）、日本から来てくれた柳さんご夫妻の皆に心から感謝しています。

皆さんの幸福と健康、成功をいつも祈っています。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

―夏の関東若者企画―

8月11日・多摩実顕地で
『特講を考えてみよう！の会』と『バーベキュー』をやりました

千葉県　MK

『特講を考えてみよう！の会』は、もともと8月特講の送り出しの場ではありましたが、特講が延期になったこともあり、少し趣旨を変えてやってみました。特講に行きたいと思った理由や、それぞれの特講を受けてからこれまでの話などを聞いて、自分の特講を振り返る場にもなってとても面白かったです。12 月の特講ができるように、自分自身もやれることを一緒にやりたいと思います。

バーベキューには、大学生～社会人まで幅広い年齢層のメンバーが合計 20 人ほど集まりました。中には「20 数年ぶりに会った！」と言っていた人もいて、再会の場を作れたことがとても嬉しかったです。

これからも皆んなが集まれる場として、若者企画を続けていきたいし、今後はこの企画をまた下の世代に繋げていけたら良いなと思っています。

今、関東・関西どちらも若者企画が盛んで、交流の機会も多いです。地域に関係なく仲間ができて、一緒に何かできることがとても楽しいです。興味ある人！ 是非一緒にやりましょう！

参加者の感想

●埼玉県 TY

今回の特講を考えてみようの会と BBQ に参加して、集えることの貴重さを改めて感じました。特講を考えてみようの会では、他の方の特講への感じ方、感想を聞くことができました。自分は、自分自身が何をやりたいのか考え直したいという思いで、特講に参加しようと思っていたので、学びになりました。

今回特講が無くなってしまったのは残念でしたが、今回のような集まりがあることは楽しく、学びが多くありました。

●東京都 YA

久しぶりにヤマギシのイベントに参加しましたが、予想以上に充実した時間を過ごすことができました。さまざまな世代の参加者や旧知の友人と交流し、人とのつながりの大切さを改めて実感しました。

主催者の細やかな配慮や、参加者全員の主体的な行動のおかげで準備もスムーズに進み、BBQ や花火大会も快適に楽しむことができました。全体として非常に有意義な体験ができ、次回もぜひ参加したいと思います。

ひろば

全集中。職場復帰を目指して

福岡県　YK

心を無にするってこんな感じ？ ただリハビリに専念し、空き時間は、やりたいと思った事をやっている。迷いも思い煩いもない。心が穏やかで物事に集中できる。

股関節骨折の為 6 月末に手術を受けた。3 週間ほどの急性期病院の入院から、今はリハビリ専門の病院で現役復帰を目指して入院している。5 月から常勤で小学校の英語専任講師として働いていて 1 ヶ月半、やっと仕事が見えてきたかな？ というあたりでの校内での事故。

果たして復帰できるのか？ と自分の 71 歳という年齢のことも考えて、ふと不安や迷いが無かったわけではない。

でも今は、子ども達とまたもう一度会えることを楽しみに、ひたすらリハビリに励むのみ！ と、心に決めて以来、階段 4 階まで荷物を持って登り、午前中立ちっぱなしで授業をやってくる！ その体力、筋力をつけることを目標に日々訓練を重ねている。心は穏やかだ。やる事に集中している感じはほんとうに心地よい。こんな心境は久しぶりだ。自分の心からやりたいことを素直に真っ直ぐやっている。

時にそれは、リハビリの後のホットコーヒーだったり、読書だったり、ビデオ鑑賞だったり、水彩画だったり。気が向いたら教材研究だったり…。

足の回復と共に心の涵養もできて心が満ち始めている。復帰のゴールも見えてきたようだ。

●幸福会ヤマギシ会の活動経費への「協力金」お願い

現在、会員のみなさんからの会費徴収は行っていません。会の活動・運営費用などは、心ある人の持ち寄り協力金（カンパ）で運用しています。ご協力をお願いします。

「協力金」振込口座：ゆうちょ銀行
口座番号：００８６０－８－６２３２１
口座名：幸福会ヤマギシ会本部

たくさんの人と会い、いろんな体験をしてみたい

北海道女満別町　SK

北海道に来て早 11 年。現在、アート書道家として活動をしています。思いもよらない人生です。11 年前に全国各地の路上に座り言葉を書き始め、2 年前から本格的にイベントに出店したりパフォーマンスをしています。

コロナ禍で僕の生活も大きく変わり、自分らしく生きる事を選択してきて今があります。よく「仕事は何？」と聞かれますが何でもやります、僕に出来る事で必要とされれば。農家さん、漁師さん、大工さん、ラジオパーソナリティー、他にも細かい頼まれごとの日々の中、40 歳にもなってようやく仕事って誰かのお役に立てたり喜んでもらえる事の手段なんだなと思うようになりました。つまり、職業なんてなんでもいい。喜びを稼ぐこと。書道家としての活動も、たくさんの出逢いやご縁、感動があります。

思い出深いのは、とあるイベントでのパフォーマンス。ステージで妻が歌い、息子が踊り、僕が書く、その家族や仲間達と創り上げた空間は優しく最高の時間でした。幸せの波動が広がり笑顔あふれる会場ではみんな笑ってました。

生きてりゃいろんな事がありますが「生きててよかった！」とそう思える瞬間が何度かあります。それが生きがいってやつですね。その瞬間をたくさん感じたいから、もっとたくさんの人と会いたいし、いろんな体験をしてみたい。いま夢なんか無くても、間違いなく夢にも思わない人生が待ってるから、自分で枠を決めず何でもやっていこうと思います！ もしお見かけしたら声をかけて下さい！ 喜びます w

---

変り者列伝（上）

〝面白い〟を追っかける

もう昔話の部類に入るが、1970 年前後の頃「特講」期間中に世話係さんからいかにも〝ヤマギシらしい〟心に残る逸話を幾つか聞かせてもらった。

例えば山口県の周防大島に住む漁師のＨさんは、三重での研鑽会に来る時、首にチッキ（小荷物切符）と書いた紙をぶら下げて駅の改札口を通り過ぎようとしたとか……。

社会学者の見田宗介 (1937-2022) さんも語る。

「ある共同体の話で、そこでは労働が強制されない。農業や牧畜、本の出版もしていますが、働きたい人だけが働く、ということで成り立っています。それを聞いたある人が、そんなうまい話があるものかといって、入会し、みんなが仕事をしているのを尻目に、好きな釣りばかりしていたそうです。十六日間釣り三昧の生活を送ったところで結局退屈になってしまい、仕事をしたくなったらしい。」（対談集『二千年紀の社会と思想』2012）

すぐにイズム運動の先人Ｔさんの面影が浮かぶ。

現在の春日山実顕地（三重県）の前身「百万羽科学工業養鶏」創立への参画者第一号は明田正一 (1913-1964) さんだった。

始まりは第一回「特講」開催以前から熱心に山岸式養鶏に取り組んでいた京都の八木町諸畑部落の会員、明田さんが山岸巳代蔵宛に

〝キチガイになれたのが嬉しい。キチガイが治らぬうちに来る気はないか〟との手紙を出したら、

〝前略　過日は五五会で忙しくしていましたので、お話も出来ず残念でした。八木の支部にもそんな変り者がいたということは知らなかった。変り者を探している。変り者を探し合って、変り者でない人を変り者にしようじゃありませんか。そして世界中の人みな変り者に変えましょう。〟(1955.6.8) といった返信の葉書からだった。

無口だが時々奇抜なことを言う明田さんの人となりに心惹かれた山岸巳代蔵は、その年の 7 月には〝私は諸畑の土になりたい〟とその地に鶏舎を建て自ら育雛を始める。

1958（昭和 33）年 4 月「百万羽養鶏」構想が発表された。明田さんはその頃の山岸巳代蔵との対話をふり返る。

「百万羽養鶏」構想が発表される前、一度四日市（三重）へ来るようにと声がかかり出向くと、山岸さんは

〝迎え水があれば水はいくらでも上がってくる。水は無尽蔵にあるが……その迎え水がない〟という。

なるほどその通りなので自分は迎え水になりたいと思いながら聞いていると、

〝正一さんが迎え水になっても水は上がってこず、世の全ての人に見捨てられたらどうするかネ〟という。

〝その時は死にます。死ねばよいでしょう〟といった。実際そのつもりであったから気軽にいえた。

しばらくして〝あんた一人は死なしはせん〟と一言。胸にこみ上げてくるものがあった。山岸さんの眼が光っていた。

8 月には「百万羽」の建設地が現在の春日山実顕地に決まる。10 月には 10500 羽のヒナ入り式。しかしその年の暮れから何かと資金が詰まっていく。その頃明田さんの一言に山本作治郎 (1912-2004) さんはハッとしたという。

〝まだ金あるのか、そんなんあるからやりにくいのや。わしは革命をやりにきたんが面白いのや〟

面白いのでやっているのだという !? ずいぶん無茶な話だとも思うが、言わんとするところがどこにあるのだろうか。そんな〝面白い〟にあれこれ想いを馳せてみる昨今だ。

〝トンボ釣り　今日はどこまで　行ったやら〟

（佐川清和）